

第8期

羅臼町総合計画

令和6年度～令和13年度

人・まち・自然いきいき 未来創造

～魚の城下町 らうす～



令和6年3月
北海道 羅臼町

町長ごあいさつ



平成 28 (2016) 年に策定した第 7 期羅臼町総合計画では、漁業や観光などの基幹産業の発展・振興、人口減少対策や知床未来中学校建設及び地下資源を活用した持続可能な羅臼町の構築を重点目標として策定してまい

りましたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延やロシアによるウクライナ侵攻をはじめとした、世界各地での紛争、物価高騰や異常気象による温暖化など想像もつかないような社会の変化に翻弄されることとなりました。

そのような中であっても、町民皆様のご理解と心強いご支援のおかげで第 7 期である 8 年間の町政運営を行なうことができました。

そしてこれからの 8 年間も目まぐるしく変化している社会情勢の中ではありますが、先人の功績をしっかりと受け継ぎ、次代を見据えた事業への取り組みを後押しし、愛するふるさと羅臼に夢を描いていけるようなまちづくりを町民が手を取り、支えあい築いていかなければなりません。7

この度、その基本となる第 8 期羅臼町総合計画の策定にご尽力いただいた羅臼町総合計画策定委員はじめ、関係機関の皆様、また、本計画策定に伴うアンケートにご協力いただきました多くの皆様に対し、心からお礼申し上げます。

行動方針1：地域資源を活かした活力ある産業のまち

施策：観光の推進

<p>推進事業</p>	<p>観光客及び修学旅行等の受入れ体制の整備</p>
<p>現 状</p>	<p>従来からの問題点であった宿泊施設のキャパシティや駐車場の確保等については依然として十分な解決には至っていないものの、多くの方々が当町の自然環境等の観光資源を目的に訪れています。 コロナ禍で激減した一般観光客も回復傾向にある他、新型コロナウイルス感染症を避けて訪れていた修学旅行等も落ち着きを見せています。</p>
<p>課 題</p>	<p>観光拠点である「道の駅知床・らうす」は、駐車場のスペースに限りがあるため繁忙期の駐車スペースの確保及び国道の交通渋滞防止対策も引き続き取り組む必要があります。 また、町内を運行する交通機関は定期バスとハイヤーしかないため、移動交通手段が不便であり、観光客等の足となる交通手段の確保も課題となっています。 このように、受入れ体制が十分とは言えない状況であることから、関係団体と喫緊に対策について協議を進める必要があります。</p>
<p>基本方針</p>	<p>宿泊施設の収容能力増強は、地元事業者等との情報交換や宿泊施設の誘致に取り組むとともに、町内に所在する野営場なども活用し、一人でも多くの観光客に滞在していただけるよう取り組みます。また、一般観光客の増加に伴う地域のサステナブル・ツーリズム※についても、近隣自治体との連携も視野に入れて受入れ体制の整備に取り組んでいきます。 道の駅知床・らうすの利便性向上のため、駐車場の確保や隣接する私有地の有効活用、町内での二次交通の仕組みづくりの検討を行います。 近年は、道内外の中学校・高校などが修学旅行で来訪しています。将来、再度、羅臼を訪れていただけるよう、人生が豊かになるような経験を提供し、将来の関係人口づくりに取り組みます。 また、観光全般のプロモーション、旅行会社との商品開発、関係団体との連携、調整など一元的に行う窓口として、観光振興の中心的な役割を担っている（一社）知床羅臼町観光協会及び知床ねむろ観光連盟と更なる連携を推進します。</p> <p>※サステナブル・ツーリズム 旅行先の地域文化と環境の保全を第一考えた「持続可能な観光」。 観光客が一方的に旅行先のコンテンツを消費するだけでなく、そこに住む地域の人々の生活も豊かになるような旅が一部の例である。</p>
<p>主要な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点施設（道の駅知床・らうす）の機能強化 ・オール羅臼による修学旅行誘致と受入れ体制の整備 ・関係団体等の連携 ・サステナブル・ツーリズムへの取り組み <p style="text-align: right;">【関連する SDGs 項目】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: flex-end;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>4 質の高い教育を みんなに</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>8 働きがいも 経済成長も</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>9 産業と技術革新の 基盤をつくろう</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>11 住み続けられる まちづくりを</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p> </div> </div>

行動方針1：地域資源を活かした活力ある産業のまち

施策：観光の推進

推進事業	訪日外国人旅行者の受入体制の整備とコンテンツ造成の推進
現 状	<p>国内の訪日外国人は、コロナ禍以前の数値を超えるまで回復しており、羅臼町においても令和元（2019）年度に1,100人だった訪日外国人の延宿泊者数が、令和4（2022）年度は1,438人を数え、順調に回復に向かっていきます。</p> <p>当町においても、世界自然遺産知床を有しており、シャチやオオワシなど希少な野生鳥獣を観察することができることから人気が高い状況です。このようなワイルドライフ体験は、世界的に見ても高付加価値旅行者※を惹きつけるのに十分なポテンシャルがあると評価されています。</p> <p>※高付加価値旅行者 観光庁によると「単に一旅行あたりの消費額が大きいのみならず、一般的に知的好奇心や探求心が強く、旅行による様々な体験を通じて地域の伝統・文化・自然等に触れることで、自身の知識を深め、インスピレーションを得られることを重視する傾向にある」とされています。</p>
課 題	<p>外国語対応ができるガイド・案内看板等が不足しているため、世界自然遺産知床羅臼町の自然環境、景観に配慮した多言語観光案内看板等の整備、観光デジタルDXへの取り組みが必要です。</p> <p>また、消費をする際の訪日外国人が主流とする決済システムの基盤の整備が遅れており、町内各事業所等におけるキャッシュレス化への対応が課題となっています。</p> <p>訪日外国人の一部の富裕層や欧米豪旅行者は確実に来訪しておりますが、観光消費や長期滞在は一部限定的となっていることから、既存のコンテンツだけではなく、高水準のツアー造成を構築する取り組み、宿泊施設のサービス水準の向上などの改善が必要です。</p>
基本方針	<p>統一性のある多言語の観光案内看板の整備やデジタルを活用した町内の観光情報を入手できる仕組み作り及び町内事業所、飲食店等におけるキャッシュレス化を推進し、外国人観光客のストレスを緩和し、旅の満足度を高められるような受入れ体制の整備を図ります。</p> <p>令和5（2023）年9月に参加したATWS（アドベンチャートラベルワールドサミット）においてもワイルドライフを始めとした当該エリアのコンテンツに確かな手応えがあったことから、北海道が推進するアドベンチャートラベル事業と並走を行いながら継続的なプロモーション活動を推進します。</p> <p>地域周遊・長期滞在・リピーター化が実現するようツアーを磨き上げ、地域のガイドやコーディネーター育成によってツアー全体の満足度を加速度的に高めることで消費額の最大化を図るとともに、地域の多様な関係者を巻き込むことで、地域経済のさらなる発展を推進します。</p>
主要な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ DX活用を含めた多言語観光案内看板等の整備 ・ 観光案内所等における外国語対応の充実 ・ インバウンド向けプロモーションの実施 ・ 町内各事業所等におけるキャッシュレス化の推進 ・ アドベンチャートラベル向け高付加価値ツアーの造成 ・ ガイド及びコーディネーターの育成の研修と取り組み <div style="text-align: right;"> <p>【関連するSDGs項目】</p>  </div>

行動方針1：地域資源を活かした活力ある産業のまち

施策：観光の推進

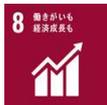
<p>推進事業</p>	<p>地域資源を活かした観光コンテンツの整備</p>
<p>現 状</p>	<p>地域資源を活かした体験、滞在型及び悪天候時の体験コンテンツの不足などにより、観光客の選択肢が限られていることから、依然として長期の滞在に繋がらず、通過型観光となっているのが現状となっています。</p>
<p>課 題</p>	<p>当町の観光コンテンツの特徴として、クジラ、シャチ、イルカウォッチング、ヒグマクルーズ及びバードウォッチング等が中心となっているため、観光客数は羅臼沖等で野生動物達と遭遇できる時期に左右され、町内の観光シーズンの繁忙期と閑散期の観光客数の差が大きくなっています。</p> <p>一方、山側では日本百名山の一つである羅臼岳の登山、羅臼湖トレッキング及び熊越の滝などの散策など知床の大自然を体験することが可能ですが、ガイド不足などにより十分な受入れ体制が整っていない状況であります。</p> <p>冬季間の知床峠の閉鎖の影響もありますが、観光船のオフシーズンである3月中旬～5月及び11月～1月は閑散期となるため、この時期でも楽しんでもらえるような観光コンテンツ作りが従来からの課題です。</p> <p>新たな観光コンテンツ等については、観光協会を中心として検討をしていますが、コーディネーター及びガイドの担い手不足等もあることからプログラム開発が遅れています。</p>
<p>基本方針</p>	<p>当町は世界自然遺産知床を有する地域であり、国内外で見ても一定のブランド力があるため、特別な体験を仕立てることでより価値の向上が期待できます。</p> <p>クジラ、シャチ、イルカウォッチング、ヒグマクルーズ及びバードウォッチング等、これらの野生動物を一度に国内で見られる場所は少なく、当町の最大の魅力的な観光コンテンツであることから、引き続きプロモーション活動を推進します。</p> <p>町内の様々な場所におけるトレッキング、登山及び陸上の野生動物を観光素材とした当町に訪れなければ味わうことが出来ない魅力あるプログラム開発に取り組み、旅行者の多様なニーズに対応ができ、長期宿泊を促す観光コンテンツを創出し観光客の誘致に取り組みます。</p> <p>また、日本でも有数の漁業が盛んな地域であるため、ここでしか食べることができない珍しい食を味わうことができるため、食についても観光コンテンツ開発時に組み込めるような取り組みを図ります。</p>
<p>主要な施策</p>	<p>・ 体験型観光、滞在型観光コンテンツの創出とプログラム開発</p> <p style="text-align: right;">【関連する SDGs 項目】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: flex-end;"> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  </div> <div style="width: 50%;">  </div> </div>

行動方針1：地域資源を活かした活力ある産業のまち
 施策：観光の推進

<p>推進事業</p>	<p>観光資源ブランディングの推進</p>
<p>現 状</p>	<p>知床羅臼町には多種多様な観光の素材がありますが、それゆえに羅臼町がどのような町で、どのような体験ができ、何を食えることができるのか、町全体としての観光プロモーションにおけるメッセージが統一されておらず、観光協会や関係団体等も含め、一体感をもった観光客の誘致の取り組みが行えていません。 統一されたテーマ、コンセプト、イメージ戦略等、発信すべき魅力の見直しが必要となります。</p>
<p>課 題</p>	<p>国内旅行者、インバウンド、アドベンチャートラベル等における各種データ等の収集、分析によるターゲティング戦略を行い、羅臼町として一貫したメッセージの発信を行うことによりプロモーションの効果が生まれます。 また、メディア、SNS 等を通じた継続的に活用ができるコンセプトにあった静止画、動画等のコンテンツ作りも重要であり、シンボルマークであるらうすマーク、知床羅臼ブランド認証マーク等の今後の活用の在り方の精査も必要となります。</p>
<p>基本方針</p>	<p>知床羅臼町から発信すべき魅力を見直し、全体的なブランディングを行うことにより、今後のイメージ戦略を作り上げ、町全体が統一されたテーマ、コンセプトにあったコンテンツ及び同じ視点で観光 PR ができるような取り組みを推進します。 また、ブランディングを通じ、継続的にプロモーションを行うことにより、より効果的に知床羅臼のブランドイメージの浸透を図り、観光客の誘致、関係人口の創出及び地域の活性化に取り組みます。</p>
<p>主要な施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光資源のブランディングの推進 ・ 世界自然遺産知床羅臼町の魅力の見直し ・ 統一されたメッセージによるプロモーションの実施 <p style="text-align: right;">【関連する SDGs 項目】</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>1 貧困をなくそう</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>14 海の豊かさを守ろう</p> </div> <div style="width: 45%; text-align: center;">  <p>15 陸の豊かさも守ろう</p> </div> </div>

行動方針1：地域資源を活かした活力ある産業のまち

施策：観光の推進

推進事業	新たなイベントの推進
現 状	<p>羅臼の先人たちが作り上げてきた知床開き及び漁火まつりは、羅臼町に賑わいをもたらし、観光客とのふれあいの場となってきました。</p> <p>しかし、近年では、人口の減少が加速し、祭りの運営や催し物の開催時の参加人数も減少しており、イベントの在り方の見直しを踏まえ、伝統的な両祭りは、令和5（2023）年度をもってファイナルとなったところです。</p>
課 題	<p>新たなイベントについては、人口の減少により担い手不足が想定される中、今後においても継続的に開催ができるような仕組み作りが求められます。</p>
基本方針	<p>行政、関係団体等による町民主体の実行委員会方式での開催を目指します。</p> <p>●テーマ 町民祭りの意思と伝統を引き継ぎ、現代のニーズにあった次世代まで続くイベントを目指します。</p> <p>●コンセプト （1）町民がお互いの信頼関係で一体感をもって地域の賑わいを作り、同じ視点で意見を出し合い、毎年内容の見直しを行いながら発展的なイベント （2）羅臼の祭り文化を継承、魅力を再発見し、町民全体が楽しめるイベント （3）町外の方がイベントを通じ、知床羅臼の自然、食、観光等の魅力に触れ、羅臼を応援してくれるファンが増えていただけるようなイベント （4）イベントをきっかけにふるさと羅臼に里帰りする町民が、羅臼の懐かしさに触れられるイベント （5）羅臼の子どもたちが積極的に参加できるような仕組みを作り、思い出に残るようなイベント</p>
主要な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・町民主体のイベント開催の推進 ・観光客との交流の場となるようなイベントの推進 ・イベントを通じた町の賑わいの推進 ・特産品のPRの推進 <p style="text-align: right;">【関連するSDGs項目】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>8 働きがいも経済成長も</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>11 日本を元気にするまちづくり</p> </div>

行動方針1：地域資源を活かした活力ある産業のまち
 施策：商工の振興

推進事業	中小企業の支援
現 状	<p>基幹産業である漁業の漁獲量は低迷が続いており、町全体の景気にも大きく影響を及ぼしている状況です。また、商店、宿泊施設、飲食店等の経営者の高齢化や後継者不足などにより、中小企業を取り巻く現状は依然、厳しい状況にあります。</p>
課 題	<p>町内の中小企業の経営状況は漁業の水揚げや観光客の入り込み数によって大きく左右されるところがあるため、基盤整備及び経営の安定を図るためには、中小企業資金融資制度の利用状況や町内各金融機関との情報共有を基に、融資枠の拡大や融資額の増額など、中小企業が活用しやすい制度を検討する必要があります。</p>
基本方針	<p>事業などに必要な資金を円滑に調達できるよう、町内各金融機関と連携を図り、企業の経営安定及び経営基盤の強化を推進するとともに、国、北海道、中小企業支援機関などの様々な支援策や施策、事業などを適切に活用させるため、商工会、各金融機関、行政が連携し情報提供を図ります。</p>
主要な施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 羅臼町中小企業振興資金制度による支援 ・ 羅臼町中小企業振興資金制度内容の見直しの検討 <p>【関連する SDGs 項目】</p> 